

#002

動画配信最前線

YouTubeチャンネル「HOME広島ニュース」チャンネル登録者は1年で3倍に 安芸高田市関連は1,000万回近い再生数

報道制作局報道部
立川直樹さん



インベーション事業部
デジタル事業部
井上正一郎さん



安芸高田市だけでなく LGBTQ関係の番組も人気

—立川さんは報道番組のプロデューサーですが、ネット配信をどのように活用していきたいと考えていますか。

立川■ローカルの放送局ですので、広島エリアでの放送は見られる方が限られています。また、私はドキュメンタリーを多く手がけているのですが、放送エリアだけでは視聴者数も限られています。いつも、なるべく多くの方に番組を見てもらいたいという思いがあり、そんな中でネットで見てもらえるというのは非常に魅力的な出し方だと思っています。

—YouTubeの「HOME広島ニュース」で人気のコンテンツにはどのようなものがあるのでしょうか。

立川■300万回以上見ていただいている番組がいくつかあるのですが、広島県の総人口は280万人ぐらいなので、ここまで反響はあるとは予想していませんでした。なかでも安芸高田市の市政を追った動画は1,000万回近いアクセス数があります。広島県の小さな市の話なので、この数にはちょっと驚いています。

安芸高田市の動画のほかには、LGBTQ関係のドキュメンタリーがよく見られていました。そのジャンルを掘り下げたいという記者がいて、熱意を持って取材した番組です。

安芸高田市の動画のほうは特に反響が大きかったので、映画版を制作しました。5月下旬に東京の映画館から始まり全国公開される予定です。

—配信した後の反応はどうか。

立川■YouTubeのコメント欄にはダイレクトに反応が返ってきますが、このような経験は初めてでした。放送ではダイレクトに感想を聞くことはあまりありません。多くのコメントが来たことによって生まれた新たな視点を盛り込むことができるなど、テレビの取材の仕方もうごく変わってきたと実感しています。

ポッドキャストを開始 新しいプロダクトにも挑戦

—YouTubeに配信するときは、何か工夫はされていますか。

井上■内容は地上波で放送したものをそのまま配信しているのですが、なるべく興味を持ってもらえるように、直感的かつ具体的なサムネイルの作成を心がけています。また、現在は「ショート動画」や「コミュニティ投稿」を活用し、幅広い方に動画を見てもらえるような工夫もしています。

—県外からの視聴者も多いのでしょうか。

井上■弊社のチャンネルは、95%が県外の視聴者が占めているというデータが出ています。そういう意味では、これまで県内でしか放送していなかったコンテンツが、世界というところまで大袈裟ですが、日本全国で見ていただいていると理解しています。

また、安芸高田市の動画は1年半前から配信を始めたのですが、その影響でチャンネル登録者も急増しました。1年前は5万人くらいだったのですが、現在、15万2,000人ぐらいまで増えています。1年のうちに3倍ぐらいになって、われわれもすごく驚いています。

—今後取り組みたいことがあればお聞かせください。

立川■YouTubeでのドキュメンタリー配信は、まだまだできることがあるのではないかと考えています。よりニッチなところや、もしかしたらちょっとマニアックなところも掘り起こせるのではないかと思います。また、幅を広げて、普段の報道でこぼれてしまうようなインタビューや会見など、放送を補完するような使い方もできればと思っています。

井上■今年の2月から、アナウンサーを起用しYouTube用の「ポッドキャスト」を開始しました。弊社のコンテンツに興味を持ってもらえる方を増やすのがわれわれの仕事だと思っていますので、このような新しいプロダクトにも果敢に挑戦していきたいと考えています。

オススメコンテンツ



【地方議会に潜入#1】
議員の3分の1が新人?
政治マニアの
春香クリスティーナが直撃

春香クリスティーナが広島県内の地方議会を直撃する「センセイ、そこんとことーなん」は、安芸高田市議会への関心の高まりから生まれた企画。今まで伝えられることが多くはなかった地方議会だが、再生回数は4万回を超えた。



from
YouTube

地域の出来事でも、打ち出しの仕方によっては日本中の関心事になりえることがわかるお話でした。動画のサムネイルやタイトルでは、地域の事情を知らない人たちでも興味を持つような表現が重要です。ぜひ、放送エリア外への発信を強く意識した動画配信をお試しください。